

校長室だより

第86号

令和4年4月12日

校長 斎藤 瑞穂



4月6日、桜の花びらが美しく風に舞う中、令和4年度の杉七小が始まりました。

始業式に集まったみなさんの様子はいろいろでした。いつも通り変わらない人もいれば、興奮気味でいつもより元気な人、反対に少し不安そうな人もいましたね。新しい学年、新しい担任の先生・・・クラス替えをした学年では、新しい仲間との出会いもあり、多くの人は期待と不安が半々だったことでしょう。新しいことの始まりには、いつだってちょっとした緊張感があるものです。でも、そんな緊張感、私はいいなとも思います。

何かを始める、何かが始まるときは、何かにチャレンジするときです。新学期で言えば、新しい友達をつくることも新しいクラスをつくることも、新しい先生との関係をつくることも、みんな少し勇気のいる挑戦です。ドキドキするけれど、自分から話しかけてみる、意見を言ってみる、自分のよさをアピールするといったことを、ぜひやってみましょう。うまくいってもいかなくても、その挑戦は、今年度のみなさんにとって始めの大きな一歩になりますよ。応援しています。



ひとりひとりで また みんなで 考えよう 「しあわせをつくる」こと

さて、今年みなさんに考えてほしいテーマは「しあわせをつくる」ということです。

「しあわせ」って、なんだろう。始業式でみんなに問いかけた時、4年生が「コロナがなくなること！」と大きな声で答えてくれました。なるほど、確かにそうなつたらうれしいですね。ほかにも、「友達といっぱい遊べること」「元気なこと」「おいしいものをおなかいっぱい食べられること」・・・などなど、いろいろな

つぶやきが聞こえてきました。どれもしあわせにちがいありません。ふだん気づいていないような、当たり前に思えることの中にも、しあわせはたくさんあります。

そして、そんなしあわせを「つくる」ってどういうことだろう。

これまで学んできたこと、そしてこの一年間杉七小で学ぶことをもとに、一人一人考えてください。そして、3月に、その時までに考えてたどり着いた答えをぜひ教えてくださいね。



ようこそ！一年生

始業式の後、入学式が行われ、68名の一年生が新しく杉七小の仲間になりました。

笑顔で元気に入場してきた1年生。どの子も目をキラキラさせ、これから始まる小学校生活を楽しみに待っていたことが伝わってきました。そんな1年生へ、私はからは今年も3つの種をプレゼントしました。

- ・かしこさのたね
- ・やさしさのたね
- ・たくましさのたね



どの子もしっかり受け取って、胸の内にうめてくれました。いっしょに大きく育てていくのが楽しみです。

保護者の皆様へ

新年度になり、子供たちは、気持ちも新たに元気になって登校しています。こうした学年始めの前向きな気持ちを大切に、毎日通うのが楽しく学ぶのが楽しい、安心して居られる場所になる杉七小にしていきます。

校長室だよりは、今年度も週1回、子供たちに向けて発行する予定です。よろしくお願いいたします。